

令和元年度

## 学校評価（結果）

育てたい生徒像

- 1 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心を持つ生徒
- 2 人権を尊重し，民主的かつ協和の精神に富んだたくましい生徒
- 3 勤労と責任を重んじ，自主的・自立的に行動できる生徒
- 4 自己のあり方や生き方について考える生徒

徳島県立小松島西高等学校勝浦校

総括評価表

重点課題 1

「わかる授業の展開と確かな学力の定着」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価		
(全体レベル)  基礎的・基本的な知識・技術を習得させるため、指導方法の工夫・改善を行い、生徒の学力の定着と向上を図る。  (下位組織レベル) ①学習習慣の定着 ②基礎学力の向上 ③指導技術の向上と評価方法の工夫・改善 ④授業時間数の確保	<b>評価指標</b> ①-1 学習プリント等の整理 (ファイル綴じ) 机上・ロッカーの整理整頓 1年生 80%以上 2, 3年生 90%以上	<b>評価指標による達成度</b> ①-1 学習プリント等の整理 (ファイル綴じ) 机上・ロッカーの整理整頓 1年生 90% 2年生 90% 3年生 90%	<b>総合評価</b> 評定 B (所見) 学習プリント等の整理や机上・ロッカーの整理整頓はHRによってばらつきが見られる。生徒の自己管理能力を身に付けさせるためにも継続した指導が必要と考える。家庭学習の習慣化や自主学習に関しては、まだまだのようである。家庭学習の習慣化は目標を達成することが困難ではあるが、継続して指導をしていきたい。	B	○家庭学習の習慣化  ○授業内容の改善 ○評価方法の見直し  ○学校行事の精選 ○授業時間数の確保
	①-2 家庭学習の習慣化 自宅学習ゼロ時間でない生徒 1年生 40%以上 2, 3年生 60%以上	①-2 家庭学習の習慣化 自宅学習ゼロ時間でない生徒 1年生 60% 2年生 58% 3年生 87%	評定 C		
	①-3 長期休業中の課題提出率 1, 2年生 80%以上 3年生 90%以上	①-3 長期休業中の課題提出率 1年生 95% 2年生 89% 3年生 88%	評定 B		
	② 授業の取組に関するアンケート 生徒の自己評価 80%以上	② 授業の取組に関するアンケート 1学期末 自己評価 平均82% 2学期末 自己評価 平均87%	評定 A		
	③-1 授業見学会の実施 各学期に1回	③-1 3学年 6月27日(木) 2学年 9月19日(木) 1学年 11月28日(木)	評定 A		
	③-2 年間学習指導計画の検討 評価方法の改善	③-2 各教科の観点別評価に基づき、年間学習指導計画の評価の方法について見直しや改善を行った。	評定 B		
	④ 授業実施率(2学期末現在)の向上 [ 実施授業時数 / 単位数 ]	④ 授業実施率(カッコ内は前年) 応用生産科 21.5 (20.8) 園芸福祉科 21.5 (20.7)	評定 B		
	<b>活動計画</b> ①-1 整理整頓 自己管理の徹底 机上、ロッカーの整理整頓 配布物等の自己管理	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 ほとんどの生徒ができていますが、一部の生徒は教科書やノートをロッカーの上に置いたままである。配布物も保護者まで届いていない場合がある。	<b>成果と課題</b> ① 学習プリント等は各授業担当者、机上、ロッカーの整理整頓は各HR担任による指導が欠かせないので、生徒に粘り強く指導を継続しなければならない。今後も継続して自己管理の力を身に付けさせたい。		
	①-2 家庭学習時間の調査 定期考査前に調査を実施 調査結果の集計	①-2 定期考査前に家庭学習時間の調査を実施したが、家庭での学習は定着していない。	家庭学習についても、保護者からの声かけなど、少しでも家庭において学習を取り組む習慣を身に付けさせたい。		
	①-3 課題提出状況の調査 教科担当とHR担任の連携した指導	①-3 課題の提出状況を共有し、教科担当だけでなくHR担任からも課題の提出に関する指導を行った。	② アンケート結果からHRごとの状況や生徒の素直な感想や意見を知ることができた。		
② アンケートの集計 結果に関する情報共有、状況改善	② 1学期末、2学期末にアンケートを実施し、その結果を校務運営委員会などで周知し、状況の改善に努めた。	③ 人権学習HR活動を授業見学会として実施したことで、生徒はもちろん教員にとっても指導方法の改善につながる貴重な機会になったと思われる。視聴覚機器を活用した授業が実施できるよう継続して指導力向上をめざした取組が必要である。			
③-1 授業見学会 実施方法の改善 授業者の指導力及び生徒の状況把握	③-1 今年度は年間5回実施する人権学習HR活動のうち1回を授業見学会として実施した。	④ 今後も学校行事の精選や授業カウントの増加に努めていきたい。出張・年休等による授業の振替えも可能な範囲で実施していきたい。			
③-2 各科目における評価基準の検討 生徒の実態に応じた授業展開	③-2 各科目の年間学習指導計画の作成にあわせて授業の単元や評価基準の検討を行っている。				
④ 授業の実実施時数の集計 授業実施率の算出 学校行事の精選、授業の振替え等	④ 校務運営委員会において、授業実施時間数、授業実施率を報告した。学校行事カウントを授業カウントに変更するなど実施時数の確保に努めた。				
		<b>学校関係者の意見</b> 家庭学習の習慣づけは大切なことで、継続指導を行って欲しい。 2年生で目標に達していないかもしれないが、全体としては、みんなよく頑張っている。  他の教科の授業を見学することはとてもいいことであると思う。引き続き実施して、教科を越えて多くの教師が参加できる有意義なものにしてほしい。  授業時間数の確保は難しい問題だ。高校入試が本校で行われることもあり、それに伴う会議や準備などで、短縮授業にせざるを得ないなどの事情もある。少ないようなら長期休業中に補うなど、授業時間数の確保に向けて今後も取り組んで欲しい。	○教室の美化 ○学習環境の整備  ○アンケート結果の情報発信  ○より充実した授業見学会の実施  ○出張・年休等に伴う自習の削減		

総括評価表

重点課題 2  
「豊かな人間性の育成と人権教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価(評定)	
(全体レベル)  一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、生命や人権を大切にすることを意欲を培い実践力を身につける。  (下位組織レベル) ①ホームルーム活動づくり ②教職員研修の充実	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動満足度 80%をめざす。 ----- ①-2 いじめ等に関するアンケートを学期に1回実施し、実態を把握し防止に努める。 ----- ①-3 全学年で道徳教育のホームルーム活動を計画的におこなう。 ----- ② 教職員研修対象の研修会参加率を85%以上をめざす。また、その充実感や満足度を70%以上にする。	評価指標による達成度 ①-1 満足度は生徒約70%、教職員が約80%であり、次年度はさらに満足度の向上をめざしたい。 ----- ①-2 いじめ問題に関するアンケートを実施し、ホームルームの環境づくりに活かすことができた。 ----- ①-3 道徳教育のホームルーム活動は実施できなかったが、日々の社会道徳の指導などで積み重ねることができた。 ----- ② 教職員対象の研修会の参加率は約80%を超えた。また充実感や満足度は約70%であった。	評定 C ----- B ----- C ----- B	総合評価 B (所見) 人権学習ホームルーム活動は、今年度は「同和問題」を中心とするホームルーム活動を全学年で実施。ホームルーム活動後のアンケートでは生徒の理解度や関心も約80%以上と高かった。しかし積極的な取組には課題が残った。教職員に対しては年間3回の授業見学会を人権問題の研修とし、毎回アンケート結果を共有した。同和問題勉強会も実施したので充実度は高かった。また「防災と人権」のホームルーム活動と炊き出し訓練を今年度も実施することができた。今後も教職員の研修会等を充実させるため、日程や内容を精選する必要がある。	B ○実施内容の工夫及び教職員対象の勉強会の実施  ○同和問題学習の充実  ○研修内容の検討
	活動計画 ①-1 人権学習ホームルーム活動を行うにあたっては、人権教育課が学年に応じた資料を提示する。 ----- ①-2 いじめなどに関するアンケートを実施し、実態把握に努め、適切な対応をおこなう。 ----- ①-3 道徳教育のホームルーム活動を実施する際には全学年の統一の指導案を作成する。 ----- ②-1 校外の研修会には、教職員が少なくとも年間1回以上参加するようにする。 ----- ②-2 校内の研修会を年間2回以上実施する。 ----- ②-3 特別支援教育の理解を深めるために、年間1回以上研修会を実施する。 ----- ②-4 特別支援関係機関との連携・相談をはかり、ケース会議を年間2回以上実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 今年度は同和問題中心の人権学習ホームルーム活動なので、各学年担当から学年に応じた資料を提示した。 ----- ①-2 いじめ問題に関するアンケートが実施できた。 ----- ①-3 行事等の関係で今年度は実施することができなかった。 ----- ②-1 日程や内容により、全員の教職員が参加することが難しかった。 ----- ②-2 今年度は「同和問題」について基本的なことや事例について授業見学会を通じて教職員で共有することができた。 ----- ②-3 今年度は生徒理解のためのケース会議を増やし、特別支援に関する研修会として実施した。 ----- ②-4 ケースに応じて各機関と連絡を取り、相談をおこなった。またケース会議を実施した。	成果と課題 ①-1 年間を通して「同和問題」について取り組んだ。また「個人研課題」についての学習に取り組むことができた。 ----- ①-2 本年度はいじめ問題を中心とする人権意識調査を行うことができた。 ----- ①-3 来年度は行事など日程をみながら、道徳教育のホームルーム活動に関する指導案を作成する予定。 ----- ②-1 教職員が充実した研修を受ける事ができる環境整備に努力が必要である。 ----- ②-2 身近に存在する重大な人権問題について話し合うきっかけになったので、これからも積極的に取り組んでいきたい。 ----- ②-3 学校の実態に応じた研修会を展開していくことが必要である。 ----- ②-4 生徒に関する情報を教職員でいつでも共有できるように、会議の日程や内容を吟味していく必要がある。	学校関係者の意見 生徒の皆さんは、全体の雰囲気素晴らしいと思う。実習など一生懸命取り組もうという、前向きな気持ちがいい。これは、学校教育の成果ではないか。  アンケートを見る限り、学びの姿勢としてはいいが、それを行動に結びつけることが課題である。  道徳が新たに入ってくるのは、何かを減らしてというのではないので、大変だ。教員にも、どう扱ったらいいかとまどいがあると思う。HR活動の中で実施できていないかもしれないが、各教科や学校行事など、それぞれの場面で十分いろいろ取り組んでいると思うので、それを続けていったらいいのではないか。	○各ホームルーム活動実施前の事前勉強会実施  ○アンケート内容の再検討  ○活動内容・テーマの検討  ○計画的な実施及び効果的な研修内容の検討  ○関係諸機関や保護者とのスムーズな連携

総括評価表

重点課題 3  
「キャリア教育の推進と進路希望の実現」

重点目標	自己評価			学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能 進路を選択する能力と態度を育てる。 (下位組織レベル) ①組織的なキャリア教育の推進 ②企業訪問と求人開拓 ③資格取得の奨励	<b>評価指標</b> ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 90%以上をめざす。 ①-2 「勝浦塾」就業体験学習自己評価肯定率 80%以上をめざす。 ② 総求人数 250人以上をめざし、50社以上企業訪問を実施する。 ③ 資格・検定合格率 1年生 刈払機取扱作業教育 80%以上 2年生 日本農業技術検定3級 70%以上	<b>評価指標による達成度</b> ①-1 卒業時における生徒の進路決定率 100% ①-2 「勝浦塾」就業体験自己評価率 97.3% ② 総求人数 576 訪問企業数 75 ③ 資格・検定合格率 刈払機取扱作業教育 合格者 34名(100%) 日本農業技術検定3級 合格者 0名(0%)	<b>評定</b> A B A C	<b>総合評価</b> 評定 <b>B</b> (所見) 1年生のうちから将来について考える機会をもたせ、常日頃から生徒とたせ考えさせることができた。生徒と保護者が進路について話し合う機会も増えた。「勝浦塾」や進路ガイダンス等を通じて仕事に対するイメージを持たせることができた。資格試験については、生徒が主体的に取り組む、将来役立つような活動ができた。ただ、農業技術検定対策の授業のあり方については、農業科で再検討を行う必要がある。	○進路について考える機会を増やす。 ○「勝浦塾」への参加を呼びかけ、仕事をするとということについて考えさせる。
	<b>活動計画</b> ①-1 2学期に「勝浦塾」(企業訪問・見学)をおこなう。ポスター等で成果を報告する。 ①-2 職業理解・職業体験のため分野別の職業ガイダンスを学期に1回実施する。3年生は職業ガイダンスを実施する。 ②-1 進路指導課・3年学年団を中心に5、6月に企業を訪問する。 ②-2 ホームルーム活動、授業等を通じての進路指導を年3回以上おこなう。 ③-1 関係機関との連携 各種検定や資格に関する情報発信 ③-2 2年生 科目「課題研究」での検定対策 過去問題等の活用、指導方法の改善	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 2年生全員を対象に企業見学を実施した。企業の方から進路に向けた指導助言をいただいた。収穫祭では、その成果をまとめ掲示した。 ①-2 進路ガイダンス・職業体験を学期に1回実施した。3年生は1学期に職業ガイダンスを行い、就職の心構えや就職マナーについて学習した。 ②-1 5、6月を中心に管理職・進路指導課・3年生学年団が分担して企業訪問を実施して求人依頼を行った。 ②-2 各学期において進路指導についてのHR活動や授業を行った。特に3年生の1学期においては履歴書の書き方や面接指導等を何度も実施した。 ③-1 園芸装飾技能士、小型車両系建設機械、食品衛生責任者養成講習修了など検定や資格の合格者を出すことができた。 ③-2 検定前に授業形式で、過去問題に取り組む補習を行った。	<b>成果と課題</b> ①-1 企業見学を実施したことにより、仕事の内容を知ることができた。また企業の方から仕事の喜びや厳しさを教えられたことにより、勤労観が育成された。 ①-2 職業体験により実際の仕事について学べる機会ができ、体験することによって適性も判り将来について深く考えることができた。 ②-1 生徒との面談を通じて生徒が希望する職種を把握し、それに応じた企業訪問を計画的に実施することができた。また、企業とも信頼関係を築くことができた。 ②-2 進路指導の授業等を通じて、どのような高校生活を送れば良いのかと考える良い機会となった。3年生は就職・進学の書類の書き方や面接マナーなどを学ぶことができた。 ③-1 各種検定や資格取得について積極的に取り組むよう、HR担任や資格担当教員による情報発信を行うことができた。 ③-2 農業技術検定の合格率を向上させる指導のあり方について、今後も検討する必要がある。	<b>学校関係者の意見</b> 普段見ることのできない企業を見学に行き、実態や実務を知ることが有意義だ。生徒の意識向上にもつながっていると思う。 日本農業技術検定は、内容が広くて難しい。これを受けること自体に無理があるのではないかと。普段の授業を背景とした資格や検定なら意味があると思う。自主的なチャレンジは大切にしたいので、全員受検でなくてもいいと思う。また、授業以外に特別なことをする必要があるなら、意欲を見て、放課後個別に補習などで指導してはどうか。	○就業体験学習の継続実施。 ○体験したことを活かして適切な進路指導へと繋げる。 ○生徒の希望を把握し会社と連携する。 ○将来の進路と高校生活について結びつけて考えさせる。 ○キャリアパスポートを使用し、生活を振り返る機会を持たせる。 ○新入試制度に対応した進学指導。 ○日本農業技術検定の合格者を増加させる。

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(全体レベル) 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。  (下位組織レベル) ①頭髪・服装指導の徹底と基本的生活習慣の育成 ②交通事故の防止と通学マナーの向上	<b>評価指標</b> ① 年間5回以上全校集会を実施し、頭髪・服装指導や特別指導防止に向けた生徒指導面での改善を図る。  ② 校内、校外における交通安全講習会を年1回以上、運転技能向上講習会を年1回以上開催する。	<b>評価指標による達成度</b> ① 毎月はじめに全校集会を実施し、頭髪・服装・指導をならびに生活面でのアドバイスを実施した。  ② 本年度については、7月に1回交通安全に係る交通安全講習会を実施した。なお、運転技能講習会については対象者がいないため実施せず。	<b>総合評価</b> 評定 <b>B</b> (所見) 毎月月はじめに全校集会を開催し、基本的生活習慣の確立を目指した全校集会を実施している。 また、クラスを中心に遅刻無断欠席に係る指導に努めた。 さらに、6月より授業開始前にスマートフォンを預かり、授業後に返却する活動を始めたが、大変効果的であった。交通安全教室は1回実施した。	<b>B</b>	○今後も継続して毎月全校集会を実施する事で、生活面での指導の向上が期待できる。  ○授業中にスマートフォンを預かる活動は、大変効果的であったため、今後も継続していきたい。
	<b>活動計画</b> ① 各学期の節目に全校集会をおこない、HR、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導をおこなう。  ②-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施する。  ②-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上を図る。  ②-3 全てのバイク通学生徒は年1回以上2輪車実技安全講習を実施し、運転技能向上と、交通安全の規範意識を高める。	<b>活動計画の実施状況</b> ① 本年度については、毎月全校集会を実施し、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導をおこなった。  ②-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導の実施に努めた。  ②-2 駐輪場の整理・整頓、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上に努めた。年度当初の車体検査については実施できず、2学期当初に実施した。  ②-3 今年度バイク通学生徒はいなかったため、2輪車実技安全講習は実施しなかった。	<b>成果と課題</b> ① 毎月全校集会を実施し、学年、学校全体で共通意識を持ち連携を図りながら、効率的で公平な指導に努めることができた。  ②-1 バス通学状況の把握と改善指導を常時行い、バス会社や地域、家庭と連携した指導を実施に努めることができた。  ②-2 駐輪場の整理・整頓、年度当初の車体検査、校内外の交通安全教室を実施し、交通規範意識の向上に努めることができた。  ②-3 今年度バイク通学生徒はいなかったため2輪車実技安全講習を実施しなかったが、交通安全の規範意識を高めることができた。		

総括評価表

重点課題 5  
「特別活動の活性化と環境教育の推進」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定		
(全体レベル)  創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。  (下位組織レベル) ①生徒会活動・HR活動の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③環境・エネルギー教育の充実	評価指標 ①-1 生徒の特別活動満足度 90%をめざす。 ①-2 収穫祭における来場者数 300名をめざす。 ①-3 学年集会を5回以上実施する。 ①-4 生徒会行事の度に学校HPに掲載し、情報発信に努め、理解と協力を促す。	評価指標による達成度 ① 学校行事全体の満足度は80%を超えた。体育祭・収穫祭については90%を超え、充実できたと考える。 ①-2 今年度は天候にも恵まれ、来場者数は300人を超えた。農産物バザーも盛況であった。 ①-3 体育祭に関する学年集会を1回行った。 ①-4 各行事ごとにHPに掲載することができた。収穫祭の告知や、部活動の大会報告など、情報発信できた。	評定 B B B B	総合評価 B (所見) 学校行事の面においては、生徒会を中心に活動を行い、満足度も一定の数値は得られている。しかし、生徒数の減少もあり、一部の生徒に依存している状況は今年度もかわらない。文化祭については、年々出場希望者の減少により、生徒の主体的な企画運営が難しくなっている現状がある。部活動では、ライフル射撃部や民芸部は今年度も全国規模で活躍しているが、他の部も、人数が少ない中でどう活性化していったらいいのかが今後の課題である。	○すべての行事の計画・立案・相談の迅速化 ○特活課と農業科、および各担当との連携 ○文化祭・体育祭・収穫祭のあり方の ○部活動の活性化 ○リサイクル活動の推進
	活動計画 ①-1 体育祭、文化祭において生徒の実態に応じた企画・運営が図れるよう指導実施する。 ①-2 学校行事への主体的な参画が図れるよう一人一役、責任を持って取り組むよう指導する。 ② 自然科学部は、農業の授業とも絡ませ、より地域に出て行きやすくするために、全員参加の部活動の形態を取らせる。 ③ 毎日の清掃や大掃除の時には整備委員が率先して清掃活動に取り組むとともに、ゴミの分別を徹底させる。	活動計画の実施状況 ①-1 体育祭は途中雨のため、種目を一部カットして行ったが、臨機応変に対応でき、後片付けも短時間でスムーズに終了できた。文化祭は出場希望者が少なくなっているため、生徒の主体的な企画運営が難しいことが課題である。 ①-2 行事やイベントの際、参加者が固定されてくることが課題である。 ② 日頃の学習で学んだ知識や技術をいかして様々な活動に取り組んだ。 ③ 日々の清掃活動の中で生徒のマナーの向上やごみ分別・リサイクルの意識について一定の成果を上げることができた。	成果と課題 少人数の学校ではあるが、知恵を絞り充実感や達成感を得られるような行事が実施できるように考えていかなければならない。本校・分校・クラス・学年を越えてコミュニケーションをとり、本校や地域への積極的な働きかけも必要であると考えている。また、一人一人のマナーの向上や、環境美化に関する意識の向上についても、日々の教育活動の中で取り組んでいきたい。	学校関係者の意見 どの学校でも、芸術などの特別な教科を教えらるる教員が不足しているようだ。来年度補充講師を見つけることが課題であるなら、直接そのような学部を持つ大学に声をかけておき、新卒者を紹介してもらおうという方法もあるのではないかと。文化祭で農業クラブのクイズを実施したのは良かった。少人数の学校ではあるが、今後も知恵を絞り工夫をして、達成感を得られるような行事が実施できればいいと思う。	○本校や地域への積極的な働きかけ ○各行事の内容の充実 ○綿密な連携 ○一人一人のマナーの向上 ○環境美化に関する意識の向上

総括評価表

重点課題 6

「学校の活性化，産業教育の振興と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価 総合評価(評定)	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評定 総合評価		
(全体レベル)  基礎・基本の定着を図りこれまでの教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。  ①本校教育の地域への還元  ②農場経営の活性化  ③広報活動の充実	<u>評価指標</u> ① 校外実習活動，交流学习の実施数を年間30回以上行う。 ② 年間を通して野菜・果樹・草花・加工品等を中心に農産物の生産と販売をおこなう。 ③ ホームページの更新を月平均10回以上おこなう。	<u>評価指標による達成度</u> ① 校外実習活動と交流学习の実施回数 (計30回) ② 年間を通して野菜，果樹，草花，加工品等を中心に農産物の生産と販売を行うことができた。 ③ ホームページの更新については月平均 (10回)	評定 A 総合評価 A (所見) 地域に根ざした学校として地域貢献，環境保全活動や新しい時代に対応した農業教育を実践してきた。今後も、地域に根ざした学校として活動していきたい。	A	
	<u>活動計画</u> ①-1 地元小・中学校・高等学校・特別支援学校等で土作りから栽培管理等について農業支援をおこない交流を深める。(15回以上) ①-2 地元の病院や介護福祉施設へ出向き，花壇作り等環境整備をおこなう。(15回以上) ①-3 ジンリョウユリ等希少植物の苗の提供，植え付け，観察等増殖活動をおこなう。(2回以上) ①-4 棚田での田植え，稲刈り等保全活動をおこなう。(3回) ②-1 地元で期待されている草花や野菜等魅力ある農産物の生産を心掛ける。 ②-2 地元の農産物販売所「よってネ市」で野菜・果樹・草花等の農産物をあわせて年間35品目以上販売する。 ③-1 ホームページの内容を見直し，新しいデータに更新する。 ③-2 学校と保護者の連携を図るため各イベントに応じて情報の発信をおこない，説明責任を果たす。	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1 ひのみね支援学校1回(花壇作り)，横瀬小学校5回(野菜の定植のための圃場整備やサツマイモ植えつけ・収穫)，上勝中学校1回(草花寄せ植え他)，勝浦中学校1回(草花の寄せ植え他)，小松島西高校との松西藍プロジェクト(藍の栽培・染色体験)4回 (計12回) ①-2 勝浦病院(花壇作り，庭園管理4回)，特別養護老人ホーム喜楽苑(花壇作り・庭園管理・寄せ植え交流8回) (計12回) ①-3 ジンリョウユリ等希少植物の苗の提供，植え付け，観察等の増殖活動を行った。(計3回) ①-4 田植え，除草，稲刈り等へ参加した。(計3回) ②-1 草花苗，メロンやトマト・露地野菜，スダチジャムやマーメイド等多くの農産物を小学校や中学校，収穫祭，農産物販売所「よってネ市」等で販売し，みなさんに喜んで頂いた。 ②-2 野菜・果樹・草花等多くの農産物の種類と数量を販売することができた。(計33品目) ③-1 記事の内容や見やすさを考えて学校の様子や生徒の活動状況等を紹介した。 ③-2 保護者に各行事等についての案内や連絡をしたりホームページでの掲載をしたりして情報の発信を行うことができた。	<u>成果と課題</u> 日頃学習した農業に関する知識や技術をいかして様々な活動に取り組んできた。交流学习や学校間連携では，農業についての知識や技術を支援することで生徒自らの学習意欲が喚起され，自信となった。また，体験をととしてコミュニケーション能力の向上や本校の取り組みについて理解してもらった良い機会となった。今後も生徒の自主性や主体性を育てるように取り組むことが必要である。 バイオテクノロジーを活用し，絶滅危惧種や希少植物の保護，保全活動ができた。しかし，現地への移動方法や資材の購入等の予算捻出や授業時間の調整が課題である。地域に根ざした学校として，また，農業高校として生産から加工・販売に取り組んできた。そして，地域の農産物及びその販売状況についても学習することができた。 新鮮で市場価格よりも安く安全で安心な農産物が購入できると地域の方々からも好評であった。 施設・設備の老朽化における計画的な整備と有効利用，狭小な圃場の有効活用を更に検討していく必要がある。 ホームページへの掲載は，学校と地域社会を繋ぐ大きな接点となった。ホームページの掲載を更に進めたい。	<u>学校関係者の意見</u> 毎年同じことの繰り返しでも，天候などによって実は毎年違っており，いい栽培経験になっている。近年は6次産業にスポットが当たっているが，生産そのものにもっと光を当てることも大切だと思う。 老人ホームなどでの活動は，日頃見られない生徒の顔を見ることができると，生徒の成長につながっており，素晴らしいと思う。また，3年目を迎える藍プロジェクトは，今年チェコで技術交流を行っている。勝浦校で栽培した沈殿藍を使っており，そのような活動をもっと宣伝したらいいいのではないかと。例えば，JAの農業新聞などにとりあげてもらってはどうか。 「よってネ市」は，他の農家の方とのバランスもあると思うが，もっと大きなポップにならないか。勝浦校のラベルがあると，みんなよく知っていて，購入することで応援してくれている。 ホームページの更新は大変だと思うが，月単位で各校務分掌が交代で更新していることは素晴らしいと思う。	○ 校外実習活動，交流学习の継続と実施。生徒の自主性・主体性の育成 ○ 校外での活動を行うための予算確保 ○ 施設・設備の計画的な整備と有効活用の推進 ○ 研究機関や農家等の見学や研修。そのための予算確保 ○ 情報発信と宣伝活動の充実